

時代映畫

原作竜脚色名 高井清太郎
監督者 江後岳翠
撮影者 古林酒

主要役割

御摸腕の万吉	寅川延松
若旦那鶴屋幸之助	近松英三郎
浪人三山周左衛門	青木芳美
目明へ檜屋久七	市川海老三郎
番頭牛兵衛	中村翫暁
同九兵衛	嵐寛十郎
毒婦清姫のお富	八草香子
三山の娘お咲	島京子
幸之助の繼母おりつ	園千枝子
年増女	佐賀英子
指南番	間賀清一

解説——江後岳翠氏の「權八二重奏」に次ぐ作品である。

略筋——腕の万吉が御摸の總元締清姫のお富の前へ差出した金、それは身賣りして拵へたお咲の涙の金であつた。謔文によつてその事情を知つた万吉は娘に返してやらうと急いだ。其途中小お富は無念がる彼をたきつけ、久七を殺さんで土地を賣り、中仙道に茶店を開き世を忍んで悪事を續けてゐた。万吉は或日圖らずも料亭でお咲に逢ひ、その身の上話を聞いて同情し、お咲の身受けの金をお富から取上げたが、お富は二人の中を疑ひ、嫉妬の刃を振つた。お咲を底はんさしたお咲の情人幸之助はお富を介した。幸之助の罪！万吉の決心は事件を如何に解決したであらうか。